東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2005年8月5日

ラガーイブ

ムスリムの皆様。８月１１日から１２日にかけての夜は、ラガーイブ・カンディールです。崇高なるアッラーは、しもべたちに豊かな御慈悲、御恵みを下さっており、そこからこの夜に「ラガーイブ」という名が与えられました。

ラガーイブの夜のあるラジャッブ月は、御慈悲と御恵みが豊かに与えられる月です。預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）は、「アッラーよ、ラジャッブ月とシャーバン月を祝福されたものにしてください。そして私たちがラマダーン月を迎えることができますように。」とドゥアーされました。

親愛なるムスリムの皆様。私たちの信仰生活に、よい意味での新たな緊張、活力を与える聖なる三つの月と、この三つの月に存在するカンディールは、創造の意図を考え、創造主と被造物の結びつきを価値あるものとする上で、この上なく重要な夜です。これらは、私たちの心の家を照らす灯りなのです。

人の生は水のように流れ、去っていきます。過去は、過ちや善行と共に過ぎていきました。過ぎた日々を戻すことは不可能です。未来に関しても、私たちがそこで生きていることを保障するものは何もありません。今日、現在を価値あるものとすることが、私たちにできることなのです。聖なる日々、聖なる夜が与える精神的雰囲気の恩恵を受け、私たちが生きている時の価値を理解し、私たちが負うしもべとしての義務を正しく果たすことに努めましょう。これらの聖なる日々、聖なる夜は、自らを省み、問い直し、行動を点検するためのかけがえのない機会を提供してくれています。これらの日、夜において、もう一度、私たちの過去を見直し、未来へ備える必要があるのです。

ムスリムの皆様。あの世のための農地であるこの世での生を、十分価値のあるものとしなければなりません。無駄に使う時間はないのです。目標に到達するためにするべきことを、時を違わずに果たしていかなければなりません。そして崇高なるアッラーに向かい、ドゥアーし、懇願するべきなのです。クルアーンでは、「それで（当面の務めから）楽になったら、さらに苦労して、（只一筋に）あなたの主に傾倒するがいい。」（胸を広げる章第７・８節）とされています。

兄弟姉妹の皆様。崇高なるアッラーを愛することは、アッラーに対してしもべとしての義務を果たすことを必要とし、預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）を愛することは、彼のスンナを実践することを必要とします。クルアーンがアッラーの言葉であることを信じることは、その命じるところに従い、禁じられた物を避けること、偉大なるアッラーが与えられた恵みに感謝すること、あの世に備えることを必要とします。去年私たちと一緒にいた配偶者、友人、親戚たちの中には、今年この夜を迎えられない人たちもいるのです。今年のカンディールが、自分たちにとっても最後のカンディールとなりえるということを考えなければならないのです。

親愛なるムスリムの皆様。簡単にいうと、ラガーイブ・カンディールは、崇高なるアッラーのお許し、免罪を求める、希望、安らぎ、そして神聖な吉報に満ちた夜なのです。だから、この聖なる夜、そして日々が、私たちの創造主、家族、子供たち、私たちが生きている社会、そして全ての人々に対し、私たちには義務、任務があることをもう一度思い起こし、思い起こさせ、誤りや欠点を質す上での機会となるべきです。皆様のカンディールを祝福いたします。